

ねらい



- ✔ 日常の買物行動に潜む高環境負荷ライフスタイル（フードマイレージに配慮しない食材選択、安易な自家用車利用など）に気づく。
- ✔ モータリゼーションの進展を背景に、生産地・販売店・交通手段の変化に気づく。さらにその背景にある「全国総合開発計画(全総)」や「日米構造協議」(1989～90年)に伴う「大規模小売店舗法」の規制緩和が、ロードサイドショップの増加や商店街衰退の一因であることに気づく。
- ✔ 身近なライフスタイルの見直しにとどまらず、社会や経済の構造的変革を視野に入れた思考を具体的な「交通まちづくり」の政策などの提言に結びつける。

授業のすすめかた



① 買物&夕食づくりゲーム

② 1970年代から現在までの日本の変化と背景

高速道路網の進展、モータリゼーション、トラック輸送の増大、ロードサイド・ショップの隆盛とシャッター商店街、日米構造協議、大規模小売店舗法の規制緩和と廃止、食の欧米化、自給率の低下、飼料穀物の輸入など、フードマイレージの増加要因とその関連性について説明する。地産地消、身土不二、旬を重視する食生活の重要性に気づかせる。

③ 「ダイヤモンドランキング」を実施 (12・13ページ参照)

個人ランキングのあとにグループランキングを行い、各政策についての理解を深めさせると共に、合意形成の困難性と重要性を体感させる。



「ダイヤモンドランキング」については、意思決定の合理性を図るため理由の明確化を求めた。9つの政策は、農業(A・B)、輸送(C・D)、消費(E・F・G)、交通(H・I)に大分でき、選択指向性の把握が可能である。



👉 「ダイヤモンドランキング」輸送重視型(1位「C:物流のモータリシフト」)
【理由】輸送トラックはドライバーの人手不足による過剰労働等の懸念が多い。鉄道輸送が普及していけばCO₂による環境問題の改善や、(鉄道輸送の)分担率の増加が望めるのではないだろうか。

👉 「ダイヤモンドランキング」農業重視型(1位「B:農業の担い手育成」)
【感想】伝統的な日本の農業を守ろうという思いが強いという考えにより、班のトップはBとなった。全ての選択肢が重要。順位付けで政策を考えるのは難しい。



より効果をあげるツール



ロードサイドショップ
シャッター商店街
大阪産の野菜

の写真